

学生協ニュース

No.17

東北大学学生生活協議会広報委員会

本学学生寮「昭和舎」が全焼、寮生は全員無事

9月1日(金)午前3時ごろ、医学部学生が寄宿する学生寮「昭和舎」(仙台市青葉区柏木3丁目)の敷地内南側にある倉庫付近から出火し、木造二階建学生寮に延焼すると同時に舎監宿舎の一部にも延焼しました。約10台の消防車等による必死の消火活動により午前7時ごろに鎮火しましたが、学生寮および倉庫等延べ約1,400平方メートルが全焼しました。

しかし、火災発見と同時に寮生は119番通報、全寮生への避難指示、隣家への通報を迅速に行なったため、当夜寮内にいた36名の寮生には一人の怪我人も出ず、また近辺住居への延焼も避けられたことは不幸中の幸いでした。鎮火後、本学教職員4名、寮生2名が立ち合い、警察・消防による合同現場検証が行われました。出火場所と見られる倉庫は施錠されており、その近辺には出火の原因となる物はありませんでした。新聞等の報道によると放火の疑いもあり、また付近で不審火があったこと等から、現在、警察による詳しい調査が行なわれています。

なお、焼け残った建物は、倒壊など第2次災害の危険があるため、直ちに撤去する予定です。

被災寮生への支援活動がただちに開始されました

昭和舎(昭和15年開寮)は木造であったため火の回りが早く、また未明の火災であったため、寮生は着の身着のままの状態での避難せざるを得ず、教科書を含む私物の持出しが全く出来なかったという悲惨な状況に置かれることとなりました。寮生支援のため、鎮火後ただちに医学部および学生生活協議会で被災寮生支援の対策が協議されました。同時に仙台市、仙台市社会福祉協議会、青葉区社会福祉協議会からの義援金および食事の支給、東北大学生生活協同組合からの食事券の支給、また、仙台市柏木市民センター、赤十字センターや近辺住民の方々からのお世話や差し入れ、同窓生からの様々な差し入れ、等々心暖まるご支援をいただきました。

当面重要な課題は、居住先の確保です。この点に関しては、現在、学務部及び医学部等を中心に対策を検討しています。

大学は既に学寮の建設について委員会で検討しており、今後は昭和舎の再建の可能性を含め新たな施設が一日も早く実現するよう努力していく所存です。

学寮における防火対策及び環境整備の徹底を周知しました

寮の防災については、毎年定期的に防災点検や防火訓練を実施すると共に防火及び環境整備の協力を文書で依頼し、特に今年からは「クリーン・デー」等を企画・実施し、寮生の協力で寮の環境整備と防災意識の向上に成果をあげていましたが、再度、以下の文書を学寮専門委員会委員長から9月4日付けで各寮委員長に周知いたしました。

本年2月25日に有朋寮敷地内において枯れ草が燃えるという事故の記憶も薄らぐ間もなく、9月1日未明に昭和舎で不審火が原因と見られる火災が発生するという事態が生じました。

残念ながら建物は全焼しましたが、幸いにも寮生全員が怪我等もなく無事避難でき、尊い生命を守れたのも、防火訓練やクリーン・デー等をはじめ、寮生自らが平日頃の防火対策に心がけた結果と考えられます。

ついでには、貴寮においても学寮における火災発生の防止や避難経路の確保等を通じて、尊い生命と財産を守るため、なお一層努力されるよう重ねてお願いします。

なお、参考までに「学生寮における防火対策及び環境整備心得」を添付しますので、寮生の皆さんに周知されるようお願いいたします。(学生寮における防火対策及び環境整備心得を同封)